

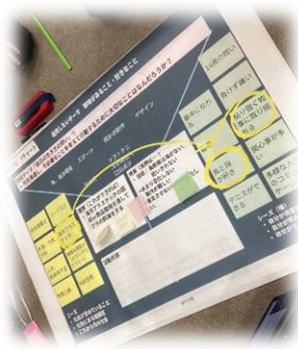
令和6年度 中学校教育研究会 あさひのプロジェクト 授業の様子

単元名・学年	これからの社会と関わる私・2年	担当者	入間川 浩侑己
キーワード	#自己の生き方 #探究 #キャリア #異学年座談会 #情報収集		

【本時の様子】

生徒たちは、テーマ「これからの社会と関わる」からテーマ「これからの社会を生きる私」に向けて、「14歳の問い」を基に、あさひのプロジェクトにおける自身の活動内容について自身の活動内容を再検討するために、1、3年生と合同の座談会を行いました。

2年生の代表者が発表者として自身の活動内容をグループ内で共有し、その発表に対して、3年生からは実際に行っている立場からアドバイスをもらったり、1年生は発表内容が伝わったかの視点から質問をもらったりして意見交換をした生徒たちは、活動内容を決めだしていくためには、「ニーズの具体的な調査が必要であること」や「シーズを見直して、ニーズにつなげていくこと」、「ターゲットを明確にすること」が実現可能な活動内容になっていくことに気付く姿がありました。



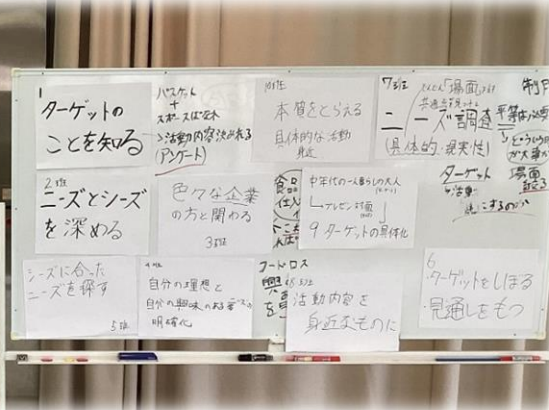
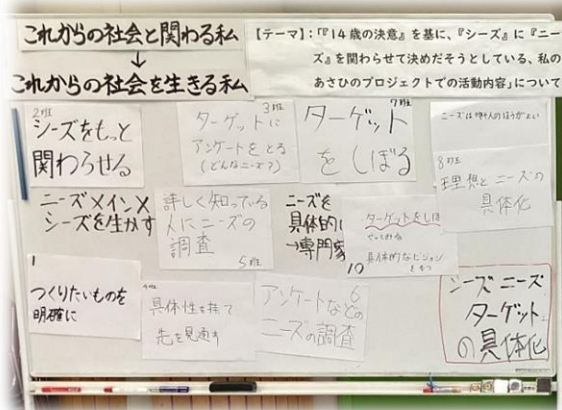
【座談会の場面】

全体共有の場面では、2年生の代表者2名が司会者となり、各グループが考えたキーワードを基に、それぞれの考えをつなぎながら得られた情報を共有することができ、座談会の目的である「情報収集」を果たしている姿がありました。



【全体共有の場面】

今後は、この座談会で得られた情報を2学年の他のクラスへ伝え、自身の活動内容を決めだした後、「活動・ニーズ・シーズ」の視点からチーム編成を行います。編成されたチームで、外部の方々とながかりながら活動内容を実践していきます。果たして、自分たちが考えた活動内容を実際に実施することができるのでしょうか！？

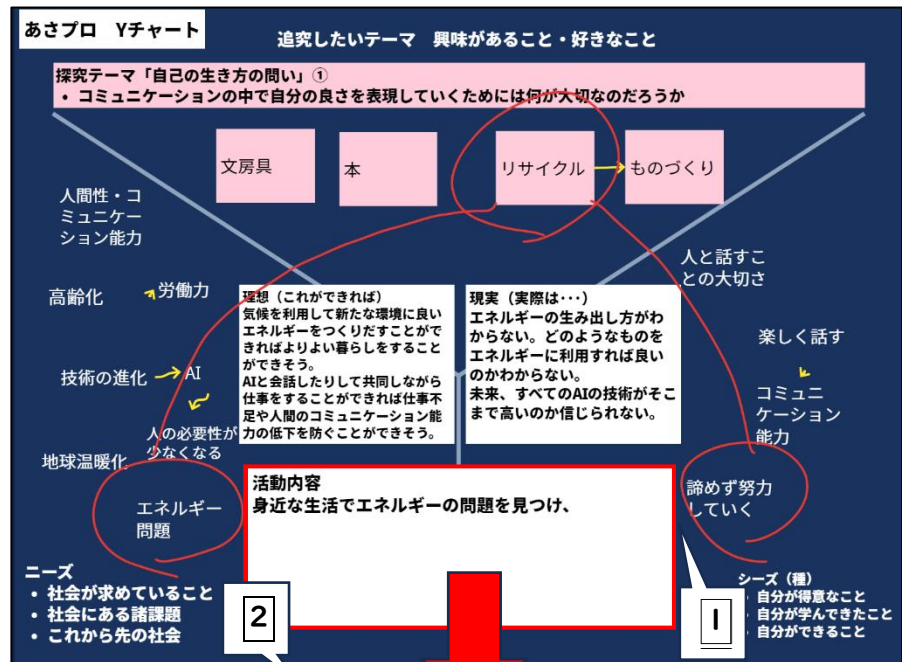


【座談会後の板書】

【学びの具体】

1・3年生合同の座談会前のM生は、「シーズ」や「ニーズ」を考えたことができたが、活動内容に決めだすことに困難を感じていた（Yチャート内①）。そこで、1・3年生の合同の座談会では、発表者として、自分が現在困っていることも踏まえて、テーマについて発表した。そこでは具体的に「ニーズ調査をしていくことで社会の求めていることが明確になり、自身の活動内容が決めだしやすくなる。」といったアドバイスを3年生が自身の現在行っている活動を例にしてもらっていた。また、「コミュニケーションは、「シーズ」と「ニーズ」

に入っている」ので、このシーズを生かした活動ができるのではないかと。コミュニケーションを生かした場面は例えばどのような場面か。」などの内容を1年生が質問する場面があり、座談会のメンバー全員で発表者の活動内夜一緒に決めだしていこうとする姿があった。その後、M生の活動内容をみんなで決めだすことができた（Yチャート内②）。そして、振り返りでは、今回の座談会の有効性について記述した（振り返り）。



【座談会后】

- ・身近な生活でのエネルギー問題について、社会の人たちに向け、AIの技術を使いながら解決策を考え、その考えをポスターなどで発信すること。

自分は、発表者として座談会に参加した。発表者がわかりやすい発表をし、「何を求めているのか」をしっかりと伝えることが大切だと感じた。今回のように困り感を共有することで、一緒に考えてもらえて座談会をよりよくすることができた。意見発信の立場でも、しっかりと発表者の立場になって考え、たくさんの意見を言うことができた。相手の立場から考えることは今後にも生かせると考える。活動内容を決めだすことができたので、このような機会を定期的にもっともよいと感じた。

（M生の座談会を通した振り返り）

【学びの成果】

- ・座談会の目的を明確化することで、主体的で活発な座談会となった。
→「あさプロ活動Yチャート」の活動内容を決めだす際の「情報収集」の場面の位置付け。
- ・異学年での座談会のため、具体的な解決策を得ることができた。
→「ニーズ調査」や「ターゲットを絞って活動内容を考える」など、実際に活動を行っている3年生のアドバイスは2年生にとって参考になる部分が多く、活動内容を具体的に決めだすことができた（この座談会の内容は、他クラスへ共有）。